

あーばんとく

平成15年 2月号 (通巻 第66号)
発行: こうべまちづくりセンター
〒650-0022
神戸市中央区元町通4丁目2番14号
こうべまちづくり会館内
電話 078-361-4523 ・ Fax 078-361-4546
URL: <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

花育ては、まち育て、夢そだて

湊町線開通記念「菜の花プロジェクト」

◆西出・東出・東川崎地区

神戸港に近く、新開地やハーバーランドが隣接している西出・東出・東川崎地区は、江戸時代は「みなとまち」として、その後は「造船のまち」として大変栄えました。

戦火を免れたことから、今も江戸時代末期の町割りが残り、古き良き人情味にあふれる下町です。しかし、住宅の密集度合が高



潮と鉄の香りが漂うみなとの風景

くて道路幅が狭い等の住環境上の整備課題を抱えた地域でもあります。

このまちでは、中央区・兵庫区の両区にまたがり結成された「西出・東出・東川崎地区まちづくり協議会」が主体となって、行政や専門家といっしょに考え行動するまちづくりを進めています。

◆菜の花プロジェクト

今年3月、地域内を貫通する都市計画道路湊町線が全線開通します。これを15年余りのまちづくり活動の大きな節目ととらえ、地域の住民とそこに関わる人々の「協働と参画のプロジェクト」として、



早くも現地で開花した菜の花

開通道路沿いを中心に“まちじゅう”に菜の花を咲かせる運動に取り組んでいます。

この「菜の花プロジェクト」は、昨年10月初旬の協働作業開始以降、延べ300名程が参加し、現在進行中です！

◆「菜の花フォーラム」開催のお知らせ

“花育ては、まち育て、夢そだて”をテーマに、菜の花にまつわる話をはじめ、これまでのまちづくりの思い出やこれからのまちの夢を楽しく語り合うフォーラムを開催します。

◇日時:平成15年3月1日(土)16時~19時

◇場所:東川崎地域福祉センター

(中央区東川崎町5、市営東川崎住宅敷地内)

◇主催:西出・東出・東川崎地区まちづくり協議会

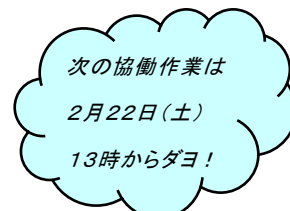
◇内容:第1部=トークショー、第2部=大交流会

◇申込み:不要、当日自由参加(定員100名)

◇参加費:第1部=無料、第2部=2000円

◇問合せ:住宅局地域支援課内 菜の花フォーラムの係

電話 322-5646



次の協働作業は
2月22日(土)
13時からだよ!



地区内の遊休地を活用し、草刈り、耕し、種まき、苗育て等の全てを協働作業でバリバリ展開中!



◆なぜ「菜の花」??

菜の花は当地区ゆかりの江戸時代の豪商「高田屋嘉兵衛」を主人公にした司馬遼太郎の長編歴史小説『菜の花の沖』にちなむもので、新しい歴史を生み出そうとする住民たちの心意気を表現しています。

(住宅局地域支援課)

連載 「コンパクトタウンづくり」活動報告

第10回 なだちゅうおう 灘中央地区 (神戸市灘区)

■灘中央地区について

南北をJRと阪急電鉄に、東西を都賀川と西郷川に囲まれた面積約36haの灘中央地区は、北側一帯が「水道筋」という有名な商業地で、南側一帯は住宅地で形成されています。



「水道筋」という名前は、大正末期から昭和5年にかけて行われた水道拡張工事で、この地区に水道管が敷設され、その沿道に商店街が形成されたことで、名付けられたとのことです。

店舗数は約450店舗、3つの市場と7つの商店街からなり、市内でも東神戸で最大の規模になっています。



■灘中央のまちづくり

震災前までは、主に商業者が商業の活性化を課題としてまちづくりを進めてきましたが、震災後に、商業者と住民が一体となったまちとすまいの復興に取り組みました。現在は、平成7年に発足した灘中央地区まちづくり協議会が中心となって活動しています。活動の一部をご紹介します。

■新・まちづくりハウス

多岐に渡るまちづくり協議会の活動を強力にバックアップし、商業地区と住宅地区をより深く結びつけ、密度の高いまちづくりを推進するために「新・まちづくりハウス」を平成14年7月に、畑原市場内の空き店舗を利用して開設しました。現在、2人のボランティアが常駐しており、まちづくり情報の収集発信や窓口業務、情報誌の発行やホームページの作成、人材発掘や地域ブランド発掘のコーディネートなどの役割を担っています。



■まちづくりマーケット

買い物を持参する「マイバック」運動や空き缶回収機の設置などエコタウンの活動を行ってきましたが、



平成13年度よりフリーマーケットを主とした「エコタウンまちづくりマーケット」を実施しています。これは、地区のまちづくりに一人でも多くの方に参加してもらい、これをきっかけに人と人とのつながりを広げていくことが目的です。いままでに4回開催していますが、毎回多くの方が参加し、盛り上がっています。

また、このマーケットには、北区の淡河地区も参加しています。淡河地区は、王子動物園のパンダの食料となる笹を提供しているところとして有名で、動物園の地元、灘中央地区と地域間で交流をはじめており、出店しました。竹でつくったいろいろな製品が並び、お客様にたいへん好評でした。

■なつかしき心のまちかど 再発見！！

地区の歴史を学んで、まちの良さを見なおすため、「なつかしき心のまちかど 再発見」というネーミングで、昔のなつかしい話や写真などを持ち寄り、まちの良さを次世代に引き継ぐ活動をはじめています。スライドショーやパネル展示、小学生を対象にした昔の写真と現在の様子を見比べる「わくわく昔探検隊」ウォークラリーなどを開催しています。昨年の夏には、納涼野外スライドショーを稗田公園で行ないましたが、100名を超える参加者で賑わいました。これらの試みは、いつも多数の方々が参加し、参加者の年齢層が様々なので、異なる世代の交流ができ、コミュニティの幅が広がるといった効果もあります。



■灘中央地区まちづくり協議会

会長 小山 喜三さん のおはなし

灘中央地区は、地区内にある団体が各々に活動を行ってきましたが、これからは情報を交換し、また、色々な意見を出し合える場が必要と考えて、昨年より、灘中央地区まちづくり協議会に19団体の方々を役員として迎えしました。協議会の活動がまだ軌道に乗ったわけではありませんが、できることからやっていきたいと思っています。そのためにも、若い力を育て任せることが大切だと考えています。「まちづくりはひとづくり」この言葉を大事にしてこれからもがんばっていきたくです。



写真⑥
(小山顔写真)

“カルチャー・ショック(!?)インドネシア” —その4「建設事情のオモテ・ウラ」—

私の専門は（一応!?) 土木ですので、今回はそのオモテとウラの話題を提供したいと思います。

1. 高層ビルが林立するジャカルタ

バリ島には多くの日本人が訪れますが、ジャカルタに行かれた経験のある方は少なく、どんな街か想像できない方も多いと思われます。私も赴任する前は、どんな田舎かと想像していましたが、実際は高層ビルが林立する大都会で

した。正確な数はわかりませんが、高さ100mを超えるビルは神戸よりはるかに多いこと



は間違いありません。人口2億を超える一国の首都をナメてはいけませんよ。

2. 耐震性・耐久性に疑問

完成したビルの見た目はとにかく立派なのですが、どんなビルでも、とにかく柱が細いのなんの。工事現場を観察してみると、鉄筋量が少ないのは一目瞭然で、とにかく耐震性に疑問を感じます。インドネシアは日本同様、火山国なので地震もあります。万一、阪神・淡路大震災クラス、と言わないまでも、少し大きな地震があれば、まず私は助からないなと思っていました。赴任中、数回地震があり、少しヒヤとしたこともありましたが、事なきを得ました（といっても、住んでいたマンションは、しっかり壁がポロポロと落ちていましたが）。とにかく、ジャカルタで、しかも地震でだけは死にたくないと思っていたのですが、2年間大きな地震に遭わずに、無事に日本に帰って来られたのはラッキーの一言です。



壁はレンガが積んであるだけ。どう考えても水平方向の力には弱い。

また、モルタルで綺麗に仕上げているため、外観からはわかりませんが、施工が雑なので、建物は10年も経つとあちこちにガタが来るようです。私の知人の住んでいたマンションでは、シロアリに食われ、床が抜けたという話も聞きました。勿論、鉄筋コンクリート造ですよ。インドネシアのシロアリはコンクリートも食べ漁るほど強力なのも、驚きですが。

3. 人力大活躍の土木工事

インドネシアの工事現場で一番の働き者は「人」です。というのも、大規模な工事以外では、ほとんどバックホウ（掘削機）を見ることがないからです。とにかく、人件費が安く、労働力が豊富なので、普通の工事ではほとんどが人力掘削です。管工事などで10人以上の作業員が並んで、つるはしを振りかざす光景はまさに圧巻です。



しかも、賃金を聞いてビックリ。土木作業員の日給はせいぜい300~400円程度。しかも、安全管理がほとんどされていませんし、事故で作業員が亡くなった時でも、会社からは日本円にして10数万円のお金しか出ないという話も聞きました。あー、なんだか…。

4. 区画整理のウラ話

最後に、工事に直接関係する話ではありませんが、建設分野の話として、区画整理の話の一つ。

インドネシアの区画整理は主に地方部で行われており、土地評価がさほど問題にならないため、減歩率は一律で概ね20%となっています。日本なら、接道等の条件で減歩率が違うのは当然で、評価式なるものが存在しますが、インドネシア人にはそんなものは理解してもらえませんが、理解しようともしません。しかしながら、最近では民主化による住民意識の変化等から、一律減歩はおかしいのではという声が出てきています。しかし、おもしろいのがその理由です。

インドネシア人の多くはムスリム（イスラム教徒）で、その称号の一つにHaji（ハジ）というものがあります。これはメッカ巡礼を終えた人で、ムスリムの中では最高の荣誉です。よって、区画整理においてもHajiの人は減歩を多くすべきという声もあるようです。

また、下水道整備の遅れているインドネシア（ジャカルタでも普及率1%程度）で、低所得者層にとって河川は重要な排泄場所・水の供給地で、利便性の高い土地です。よって、河川沿いの人も、減歩を多くすべきといった日本では考えられない発想もあるようです。減歩一つをとっても、随分、日本と違うものだなと感心させられました。

若松謙一（企画調整局総合計画課地域政策係長）

協働と参画のまちづくりをめざしてー

第2期こうべまちづくり学校基礎講座募集

講座の内容等

- ◆ 会場 神戸市教育会館（神戸市中央区中山手通4丁目10-5）
- ◆ 時間 午後6時30分～8時30分
- ◆ 定員 150名（先着順）
- ◆ 受講料 ￥1,000.-（受講決定者には、受講案内と納付書をお送りします）
- ◆ 応募方法 氏名（フリガナ）・住所（郵便番号）・電話番号・14年度の受講（基礎講座又は専修講座）の有無・性別・年齢（生年月日）職業・自治会等地域組織の役職名をご記入の上、ファックス（078-361-4546）・ハガキ Eメール（mati@kobe-toshi-seibi.or.jp）のいずれかをお願いします。
- ◆ 各回の内容

回	日程	テーマ	内容	
第1回	5月13日 (火)	神戸のまちづくり	神戸のまちづくりの歴史や震災後のまちづくりの取り組みを通して、神戸のまちづくりを解説します。	安田 丑作氏 (神戸大学工学部教授)
第2回	5月20日 (火)	すまいから始めるまちづくり	震災の経験を踏まえ、これからのすまいや住まい手同士のコミュニティによるまちづくりについて学びます。	鈴木 洋子氏 (コープこうべコミュニティ推進)
第3回	5月27日 (火)	市民が創る安全・安心～神戸市を考えよう～	犯罪が急増する中で、個人としての対策だけでなく、どのようにして安全で安心なまちを地域の住民がつくっていくのか、まちづくりを「防犯」の視点から考える講座です。	清永 賢二氏 (日本女子大学人間社会学部教授)
第4回	6月3日 (火)	神戸のまちなみ景観	神戸の都市景観やまちなみの特徴、優れた景観を形成していくためのこれまでの取り組み等について解説します。	三輪 康一氏 (神戸大学工学部助教授)
第5回	6月10日 (火)	コンパクトタウン	震災後のこうべのまちづくりの総合的な取り組みとして、コンパクトタウンを解説します。	神戸市 企画調整局
第6回	6月17日 (火)	NPOとまちづくり	新たな社会の担い手として、市民活動団体(NPO)が注目されるようになった時代背景や状況を概観しつつ、今後の地域でのまちづくりや地域住民とNPOの果たす役割・課題を展望します。	野崎 隆一氏 (NPO 法人 神戸まちづくり研究所 事務局長)

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

2月 3日(月)～28日(金)	日本で最も安全なまち “神戸”をめざして	住宅局建築指導部 違反対策室
-----------------	-------------------------	-------------------

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期間	内容・テーマ	主催者
2月 6日(木)～11日(火)	第6回 神戸墨酔会展(水墨画)	神戸墨酔会
2月20日(木)～25日(火)	全日本写真連盟兵庫県本部 委員展入賞作品展	全日本写真連盟兵庫県本部
2月27日(木)～3月4日(火)	ぐるーぷひらの展(油彩)	ぐるーぷひらの